

探訪「伝統古色・弁柄」を守り続ける町

中西部・高梁市／吹屋ふるさと村と弁柄のまち



■伝統建物に欠かせない弁柄

倉敷から高梁川に沿って国道180号を北上し約50分。高梁（たかはし）市街への入口から山間の道を約40分進むとベンガラ色の赤い町並みで知られる『吹屋ふるさと村』に到着。吹屋（ふきや）は、標高550mの山間に位置する集落で、江戸中期から銅山の町として発展し明治時代には、銅の副産物の赤色顔料ベンガラ（酸化第二鉄）の日本唯一の製造地として繁栄を極めました。メイン道路に立ち並ぶベンガラ格子と石州瓦の赤褐色の重厚な家並みが、昔日の繁栄の大きさを物語っており、国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されています。



■八つ墓村で使われた重要文化財



薄朱色の「弁柄漆喰壁」が非常に美しい街並みが続く。

鉄の副産物の「着色顔料・弁柄」は吹屋から馬で運ばれ高瀬で上方や西国へ輸送されました。江戸時代、弁柄で大きく昌した豪商の邸宅（広兼邸、西江邸）などが綺麗に保存されています。弁柄は古色再現にアップルでもよく使う顔料です。広兼邸は映画八つ墓村のロケに使用されたことでも有名です。



取材：株式会社アップル 大竹



ご愛顧大変ありがとうございます。おかげさまでアップルは7期目を迎えることができました。

エコバウリフォーム・ニュース

1月号

エコロジー& 建築生態学の応用

岡山・倉敷美観地区「旧大原家」と「旧大橋家」

江戸時代の商家、旅館が立並び素晴らしい景観が残る倉敷・美観地区から

少し離れた「旧大橋家」は江戸後期、倉敷において塩田開発で財をなした大地主。倉敷紡績の大原家と共に新興勢力を形成していました。屋敷構えは大原家とは大きく違い、表に面し長屋門があります。

建物の特徴は、主屋は本瓦葺、厨子二階建て。1階

に倉敷格子、2階が倉敷窓で『なまこ壁』が非常に美しい姿です。

約200年前の建物は、当時の倉敷町屋の典型を示し、昭和53年に国重要文化財の指定を受け、平成3年、保存修理工事も行われ往時の輝きを取り戻しました。



土佐漆喰と「なまこ壁」気候に合う構造である。

「壊さない文化」。建物が教える「200年住宅の本質」

「高く付くから新築しましょう」とハウスメーカーが未だに提案する住宅産業。かつて修繕し大切に住み継ぐ住文化を持つ日本人は、住宅寿命が20~30年という経済最優先のスクラップ&ビルドの餌食となりました。しかし、世の中の流れ……は、壊さず、次代に大切に使い継ぐ「200年住宅」。

これには定期的な修理、メンテが欠かせません。何も手を加えずに200年耐つ住宅はありません。江戸、明治、大正の倉敷の町はそのことを、わたしたちに教えてくれています。木材は100年経過した頃、一番強く、それから500年は建築材料として生き続ける事ができます。それをしっかり「活かす」のがプロであると私たちは考えております。



一緒に、植林や葦刈り&茅葺のボランティアなどに参加してみませんか？アップルでは日本の原風景を保存するさまざまな市民活動に積極的に参加中です！

「エコの先端をいく文化を取り戻す」ビンテージリフォーム
江戸時代木材を再利用するのは当り前の時代。それがいつしか捨てる文化に変わってしまった。究極のエコはそのままの形で出来るだけ長く使う
そんな私達の考えが詰まったビンテージリフォームを推進中！



アップルで囲炉裏の間を再現

12月9日(日) 土壁ワークショップ(③荒壁)に参加しました。高根沢町 佐々木邸にて



- ① 土づくり
- ② 下地づくり
- 今回のワークショップ ↓ ↓
- ③ 『荒壁』塗り壁
- ④ 「中塗」壁
- ⑤ 「仕上」漆喰塗り



ロハス・デザイン&エコロジー・リフォーム リフォームアップル自治医大店
ECOBAU REFORM ☎0120-393-897
栃木県下野市祇園1-20-1 〒329-0434
（自治医大駅東口・足銀すぐそば）
☎0285-44-8208 (fax共通)
URL <http://www.reform-apple.com> ホームページで実例を多数ご紹介中。